

令和二年十一月八日

当山二世中興 大圓大和尚十七回忌

【二】挨拶

焼香師 倫勝寺 馬場 義實老師

みなさんこんにちは。当五教区の教区長を勤めさせていただいております戸塚区の倫勝寺馬場義實と申します。いつも善光寺さまには当教区のいろいろなお役をお引き受け頂き、また神奈川県東部総和会の方でもいろいろお世話になっております。

お葬式の日からもう十六年経ちますけれども、私など若輩が申し上げるのは失礼かとは思

いますが（住職として）重たくなられたなど、そんなふうな気がしております。

皆さま方の中にはうちの先代の住職をご存じの方もいらっしゃると思います。先代との関係もあり、また、私が教区長ということもあって今回焼香師をというお話がありました。当初は観音堂の落慶を含めて盛大な行事を予定しておられたと伺いましたが、このコロナの情勢がなければまた違った形で多くの方にご縁を結ぶような非常にありがたい法要となったことであつたかもしれません。非常に残念であつたことでもありますけれども、当山先代ご住職は「それでも良い。今のままで、出来る限りのことをせよ！」とおっしゃられると、私は思います。

今回このように焼香師を拝命し、さらに何か一言お話をしなさいということでありました。送られてきた差定（役割表）や出席される方の

お名前を拝見すると、とてもとても私になにかお話をできるようなことはありませんので、一体なにをお話し申し上げて良いやら考えたわけではありますが、先代同士が法友との関係に免じて少しだけお話しさせて頂きたいと思えます。



うちの先代住職は平成八年四月十五日、大本山總持寺様のお授戒の最中にご本山で亡くなられました。私が馬場家に婿に入りまして、まるまる一年の時でありました。そんな状況ですからまだまだ右も左もわからないなかで密葬をし、茶毘、本葬ということでありました。

密葬は一週間後、本葬は一か月後となりました。途中でどれだけ寺を投げ出して帰ろうかと思ったことでしょう。本当にありました。困った、どうしよう。全くわからない状況でありました。そんな中たくさんの方に支えられて本葬の日を迎えました。

先代の黒田住職には同級生、また三心会の関係もありましたので、鎖龕さがん仏事という棺に鍵をかけるお役の仏事師をご依頼させていただいたわけです。二つ返事でお受けいただき、当日の鎖龕仏事の時が参りました。博志さんも本葬の時そうでありましたけれども薄ネズミ色

の涅槃衣と言われる衣を着て棺の脇の所に立っておりましたところ黒田前方丈さまは、堂々たるその、なんというのでしょうか、オーラとでもいうのでしょうか、それをもって拝敷、座肉の前に立たれました。

法語がすごく心に残りました。短い法語であったのですが、最後の結句のところ、何をおっしゃられるのかと思いい聞いておきますと、ものすごい大きな声で、

「身を削り 人に尽くさん すりこぎの

その味知れる 人ぞ尊し」

とおっしゃられました。

永平寺に安居しておられた方であれば大庫院のすりこぎのところ以前この句がかけてあったことを覚えていらつしやる方も多いと思います。私も安居中、大庫院におりましたし、伝道部にもおりましたので、何度もその句を眺めながら修行させてもらいました。

「身を削り 人に尽くさん すりこぎの その味知れる 人ぞ尊し」……今さら 解説させて頂くわけではありませんが、今回あらためて焼香師のお役をお受けするにあたり、その時の先代住職様の大きなお声で述べられたそのお言葉がありありと甦って参りました。「その味知れる人ぞ尊し」にお前は今なっているのか。そう問われたような感じがしております。「身を削り人につくさんすりこぎ」、理屈は解る。だけど「その味知れる人ぞ尊し」にお前はなっているのか。

先代馬場道男の遺志を継いで、また遡れば東京にお寺を開いた慈宗大和尚、そしてさらに遡れば總持寺瑩山禪師様、永平寺道元禪師様、そして当山の先代ご住職様がよくおっしゃっておられた『宗祖を通して釈尊に還る』、お釈迦さまの思いを君は解っているのか。また改めて問いかけられたそんな気がしたわけです。



「その味知れる人ぞ尊し」……冷や汗をかきながら今日は焼香師を勤めさせて頂きました。これからも時折、向こう側から叱咤激励を頂きながら皆さんと共に精進させて頂きたいと思っています。

今日は本当にお勤めをさせて頂きよいご縁を頂きました。有難うございました。



【挨拶】



護持会会長・総代 山口 義男様

先代方丈様とはお互いに学生時代貧乏旅行をしていた旅先で先代様に声をかけて頂いたのがご縁で、もう六十数年経ちます。

最近、身辺整理をしておりますと昔の手紙等が出て参りました。本日は先代方丈様が両本山の修行を終え実兄の前角博雄老師のもとで修行

をするために渡米された時にやり取りをした手紙をサプライズで持ってきました。

私の方からは日本の新聞を送って時世を伝えておりました。東大安田講堂事件や吉田茂元首相の国葬があった頃の話です。

そのお手紙の幾つかを抜粋してご紹介致します。

【先代方丈様からのお手紙・抜粋】

☆一九六七年十月八日

……道元禪師のお言葉通り「眼横鼻直なることを認得して人瞞を被らず……朝々に日は東より出で、夜々に月は西に沈む」の境界を具現せんものと精進努力する異国の人々に接し、宗教の世界は人種の別なく、国境を越えて、斯くあらねばならぬものとの感慨を深くしております。

☆一九六七年十月十五日

アメリカがいやになったら……今度はヨーロッパ、それで一応世界一廻りがすみますので今度は「若い美人」をワイフに迎えるだけとなります。

☆一九六八年十一月九日

……私は「日本の柱」になる為に努力をしなければならぬと決意を新たにいたしております。

(中略)

私の父も七十歳ですからもうそろそろ安心をしたいのだと思っています。

親の元気のうちに何か一つ——安心をさせてやりたいと思いますが、まだまだ時間がかかる事と思います。

(年月日不明)

……一年二ヶ月と一口に申しますが大変なもの

ですね。何も無い平和な一年なら話は別ですが毎日毎日があぶら汗の流れる一年はやはり苦しかったですよ。

しかし私は人間に不可能はないと信じて生きてきました。必要な事は時間と忍耐であると信じて生きてまいりました。今は白人達がすっかり僕を信用してくれ何をするのにも事欠くことはありません。その点本当にありがたい事と思っています。

あと三ヶ月と想って私も頑張っております。それは毎日が大変な事ではありますが近頃は何かあっても淡々とした生き方しております。時間が一切を解決してくれると信じております。

☆一九六九年一月十四日

……よくもやってこれたものと一人で感心をずる事ありますが……

人間にはまず不可能な事ありません。

ただ大切な事は時間かとも思っております。
 死ぬまで修行をする事ですね。いや死んだあと
 までも修行をする事ですね。そんな事を感じて
 います。

結局は淡々とした生活をしてゆく事ではない
 かと自分にいきかせております。

読書は必要ですね。

私もいろいろの事よく解りませんが一歩一歩
 です。

あせつたり驚いたりする事ありませんよ。

それぞれの生き方があるのですからそれぞれ
 の生き方をすればそれで良いのではないかと思
 っています。

(中略)

昨日の正午から今朝までふた月ぶりに雨が降
 りました。何か心の「垢」があらわれたような
 感じがいたしました。雨の日は何か少し暗い感
 じがいたしますが——私は好きです。



It is our great joy to announce that Zen Center of Los Angeles has purchased our own
 Zen-ka at 127 St. Monastache Ave., Los Angeles. The location is on William Center (only centrally
 located) for the Los Angeles vicinity. Our new Zen-ka is between Monastache Boulevard and 12th Street,
 just on Chokkazan of the old Route, and conveniently accessible from major freeways.
 Zen Center of Los Angeles just became two years old. It was born, has grown, and now
 sits. And as we set on our new Zen-ka may our care and complete dedication be one.
 Our telephone number will be the same at the new address and the weekly schedule will
 be the 1st year.

先代方丈様直筆の書簡

Prizes guaranteed:
 Rev. Tetsudo Kameida
 Rev. Tetsudo Kameida
 Grand Council, President
 Mr. F. (Franklin) Van Praeger
 Dr. Hideo Mats, Treasurer
 Robert Lindquist, Secretary
 Patrick M. (Patrick) Hoffmann
 Chao Yen-shan, Shin-shi (Chairman)
 Mrs. Ann Clark, Organizing Committee
 Howard Liberty, Organizing Committee
 Yoshiko Kameida, Building Committee
 Donald Dewberry, Building Committee

William T. Hoffmann
 Rev. Hideo T. Hoffmann, Director

